

(様式2)

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200257		
法人名	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホーム福住(東ユニット)		
所在地	新潟県長岡市福住2丁目1番15号		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成22年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長岡東口から約700mにおよぶ桜並木を進んだところに、有料老人ホーム、特別養護老人ホームを併設した複合施設として誕生した。隣接する同一法人の在宅ケアサービスとともに、地名「福住」のとおり、福が住む街づくりを掲げ地域ケアの拠点を目指している。市街地の利便性を活かした外出活動の展開、地域行事への参加や買物など地元に着目した事業所として取り組んでいる。また、併設事業所と合同企画で行事を実施することにより、多くの交流が生まれるよう努めている。今年度からバルコニーを活用したガーデニングや敷地内での畑づくりをスタートし、植物や風に触れながら、豊かな生活が送れるよう支援し、「感謝の気持ち」「謙虚な姿勢」「笑顔で挨拶」「法人の実践継承」を職員スローガンとし、「ここで暮らしていてよかった」と感じていただけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは長岡駅から近い中心市街地に位置している。近隣は生活の利便性が良く、市内の公園や博物館など公共施設へのアクセスも整っている。当ホームは、特別養護老人ホームと、法人としては初めての有料老人ホームが併設された複合型の施設である。建物の1階部分には企業内保育園も開園予定であり、利用者も子供たちとのふれあいを楽しみにしている。

長岡市内を中心に高齢者福祉・認知症ケアの先駆者として多角的な事業展開を行っている社会福祉法人が母体となっており、法人本部や他の事業所からのバックアップ体制も充実し、利用者・家族・職員が安心して生活できる基盤が整えられている。

利用者は、日常的な散歩や買い物、地域行事への参加等を通じて、地域の一員として受け入れられている。地域とは防災面でも連携しており、有事には、連絡網により地域住民から協力を得られる体制が整えられている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	支えて頂いている地域の方々や家族に、いつまでも感謝の気持ちを忘れず、謙虚な気持ちを持って取り組んでいくことを理念の一つとして掲げている。会議やミーティングの中で言葉にし、意識しながら生活支援において具現化に努めている。	開設前に職員でキーワードを出し合って、地域の中で生活し、地域とともに歩むことを踏まえたスローガンを作った。常に意識できるようスタッフルームや利用者から見えやすい場所に掲示するとともに、日々のミーティングや会議で振り返り、支援につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への買い物や散歩、地域の行事や催し物への参加、施設全体でのボランティアの受け入れを行っている。また、避難訓練にも参加してもらい災害時の協力関係を築いている。	同じ町内に法人本部が置かれており、地域住民との良好な関係が構築されていたため、事業所も開設時から地域の一員としてスムーズに受け入れられている。日々の散歩や畑作業、買い物などに出かけた際には地域の人達と声をかけ合ったり、地域行事の際は、参加したり、事業所の物品類を貸し出すなど、身近な付き合いをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が、事業所での実践を踏まえて地域の会合への出席や講師として活動に関わる等、認知症ケアの啓発に努めている。また長岡市のやすらぎ支援事業の現場実習を受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日常の取り組みやご利用者、職員の状況を報告し意見をいただいている。行事などにも参加し実際に状況を見ていただける場を設けながらアドバイスいただいている。会議記録は面会時に閲覧できるようにしている。	運営推進会議は、併設の特別養護老人ホームと合同で2ヶ月に1回開催しており、事業所の現況を見てもらいながら活発な意見交換を行っている。防災に関する地域の協力体制づくりなど、会議での意見は具体的に運営に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導と同時開催された意見交換会への参加。運営推進会議に市の職員に参加して頂き、意見や助言をもらっている。市の介護相談員に2ヶ月に1回来所してもらいご利用者の声を聞いていただき、サービスの質の向上に努めている。	市の担当者からは運営推進会議に参加してもらっている。また、意見交換会に参加したり、市のボランティア養成事業での実習受け入れ、市職員や市議会の視察受け入れなど、積極的に行政との関わりを持っている。市の介護相談員も定期的に受け入れ、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修会等で拘束となる具体的な行為について学ぶ機会を設け、周知している。	身体拘束はしないという方針が職員に周知徹底されるとともに、家族からも理解を得ている。マニュアルが整備されており、また、マニュアルを活用した内部研修会を実施して理解を深め、身体拘束のないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他県で実際に起きた虐待事件などについて話し合う場を持ったり、日ごろの業務の中で意識を持ち、研修会等に参加し、虐待についての理解、周知に努めている。	職員は、利用者の行動を制限しないよう常に言葉づかいや態度に留意している。法人では、職員を対象に虐待防止の研修会を開き、理解の浸透に努めている。また、他県で起きた事例等はタイムリーに情報共有し、職員間で話し合っている。	研修会を通じて虐待の防止が徹底されている。今後は、高齢者虐待関連法等の基本的な理解を深め、マニュアルの整備等に取り組むことで、より一層職員の意識を高めることを期待したい。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等により職員が学ぶ機会を設けている。個々の状況をその都度報告し、必要性について話し合う機会が持てるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明し、疑問点などはその都度お聞きしながら理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来やすい雰囲気作りに努め、意見や要望など会話の中からくみ取るようにしている。また意見箱の設置や運営推進会議での意見の反映、介護相談員により利用者の意見を聞いてもらう機会を設け、ミーティングで話し合い、反映している。	利用者との日々の会話から要望を汲み取り、食器棚を収納しやすく工夫したり、西ユニットでは女性専用トイレを設ける等具体的な改善に取り組んでいる。家族の面会時は意見・要望を聞く良い機会としてとらえ、話しやすい雰囲気作りに努めており、家族の意見も具体的な改善につなげている。	開設から1年が経過し、家族との信頼関係が築かれてきている。今後、家族とのコミュニケーションがより一層深まるよう、お便りの工夫などさらなる取り組みを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議やミーティングに参加し職員の意見を聴く機会を設けている。	毎日のミーティングや、月1回のグループホーム会議・複合施設全体の会議等で、業務の改善や課題解決に向けた意見交換、情報共有が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜現場の状況を確認し、変化や状況に合わせて環境整備・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修会の開催の他、法人内他事業所の研修への参加の機会を設け、ケアに反映できるよう資格取得支援や勉強できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人内での部会に参加し、意見交換や勉強会の場を設けている。今年度、法人内グループホームでの研修会を年間計画を立て、実施する予定である。また、外部研修へ積極的に参加し交流の機会を得ている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接し、希望や困っていることなどをお聞きし、疑問や不安にこたえられるようにしている。また職員でその情報を共有し、利用者が安心できるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面接し、今までの生活状況を伺い、施設の状況をお伝えし、家族の要望や不安などをお聞きしている。その時のケアマネージャー、サービス機関などから情報ももらい参考にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要か、管理者、看護師や相談員など、他職種に相談できる場面を設け対応している。必要なサービスにつなげられるように法人内施設を中心に適宜連絡を取り合っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活場面や活動において、ご利用者と「一緒に」することを第一に、調理や家事、季節や地域の風習に関してご利用者が力を発揮できるように支え合いながら信頼関係を築けるよう努力している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などへ参加を呼びかけできるだけ一緒に過ごせる時間が持てるようにしている。また面会時や電話連絡などで積極的にコミュニケーションを図り、協力を得ながら一緒に取り組むようにしている。	手紙や電話等での情報共有のほか、直接顔を見て家族とコミュニケーションをとることが大切と考え、面会時に積極的に会話を持っている。また、家族を行事に誘って、意図的に本人と家族が一緒に過ごせる時間を設けるなどしている。家族の思いに沿って一緒に本人を支えていきたいことを伝えながら、信頼関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人、知人が面会に来られた際は居室でゆっくりできる場を設け、希望時には地域や自宅への外出支援をしている。また、同施設内の友人知人の方への面会などにも気軽に行けるように声かけしている。	友人、知人の訪問時は、茶菓など勤めながらゆっくりと滞在してもらっている。また、行きつけの美容室や歌声喫茶へでかける方もおり、馴染みの生活や人間関係の継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見ながらご利用者同士のコミュニケーションを把握し、適宜職員が仲介に入ったり、寄り添ったりしている。ユニット間の行き来も自由にでき、交流の場が持てるようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老健や特養に入居された方にも、面会に行ったり、気軽に遊びに来ていただいたりや声かけをし、交流を継続できるようにしている。また、入居先の施設との情報交換を行い、フォローできるような体制づくりを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの生活の中から意向をくみ取るようにしている。希望についてはミーティングで話し合い、できるだけ実現できるように努めている。困難な方には表情や行動からくみ取り、家族等に情報収集し、本人本位の検討に努めている。	毎日の会話、関わりの中で本人の思いや考えていることを把握するよう努めている。利用者が答えたり選択しやすい会話となるよう努めるとともに、さりげない表情や仕草などから思いや意向を汲み取るようにしている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報聴取の他、実際に訪問して家や部屋を見せていただき、どのような生活をされていたのかがわかるように、可能であれば写真に撮り職員に情報提供している。好きな事や趣味などがわかるようにしている。	入居前に本人が利用していたサービス事業所に訪問したり、家庭を訪問して、家族からこれまでの暮らし方について聞きとりをしている。可能であれば、本人にとって馴染みの物やこだわりの物を写真に撮っていき、それを活かしてホームでの生活環境づくりをしている。また、センター方式のアセスメントシートを家族にも記入してもらい、情報収集している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、日々の状態を記録に残したり、ミーティングなどで情報を共有し現状の把握に努めている。また定期的にバイタル測定と体重測定を行い身体状態の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろのミーティングやケアカンファレンスを通じて、本人、家族について情報交換しながらモニタリングし、プラン立案している。また、面会時などご家族から随時意見いただき反映している。	日頃の関わりから得た情報や本人・家族の思いをもとに、職員間で話し合い、介護計画の原案を作成している。その後、本人・家族を交えて検討し、一人ひとりに合った計画を作成している。3ヵ月ごとのモニタリング、6ヵ月ごとの計画更新を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、毎日のミーティングで気付いたことは随時議題とし情報共有しているが、すぐにケアに活かせても、タイムリーなプランの見直しに活かしてきれていない。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、他部署と連携した活動への参加、法人内での情報交換等をして柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月広報で地区広報誌の回覧物が届き、コミュニティに参加できる情報を得ることができる。その他、日常の中で地域の美容院やスーパーなどにも出かけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が希望する主治医が決まっており、受診日には主治医あてに最近の状況報告を書面にて行っている。	利用者一人ひとりのかかりつけ医に、入居後も変わらず受診してもらっている。定期受診は家族に付き添いをお願いしており、所定の様式に日頃の様子を記入して受診時に家族に渡し、医師との情報共有を図っている。状況に応じて複合施設内の看護職員にも相談し、適切な医療につなげている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化等気付いたことがあれば看護へ相談、報告を行い指示をもらっている。また、日々の連絡体制をとり日常の健康管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供するとともに、入院後は面会に行き状況確認している。看護師やソーシャルワーカーとの連絡を密に取り合うことで、直近の状況把握に努め家族や本人に安心していただけるよう対応し、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う指針を示し、説明を行っている。状態に応じては法人内の各サービス機関と連携し、身体状態に応じた施設や医療機関へ移行することを基本的な対応としている。本人や家族の不安を軽減できるよう早い段階から、本人、家族、主治医と協議し方針の共有に努めている。	契約時に、「重度化の対応にかかる指針」を家族等に説明し、理解を得ている。利用者の状況に応じて、法人内の他サービスや医療機関へ移行できる体制が取られている。本人の状態変化に合わせて随時ミーティング等で職員間で検討するとともに、家族や主治医とも話し合い、方針を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設全体での研修やAEDの使用訓練、消防署による救急法の研修などを定期的に行っている。夜間の看護への連絡体制もとれており、宿直の協力の他、併設事業所職員や、緊急時のコール番との協力体制がとれるようにしている。	複合施設全体で、急変時の連絡体制や対応手順・方法が整備されている。緊急時対応の研修会も行い、職員が理解できたか、技術を身につけることができたか振り返りを行っている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や階段昇降訓練を実施し、地域の方にも案内し協力して頂いている。スプリンクラー、警報装置等の消防設備設置があり施設や法人全体で協力体制が構築されている。	災害に備えて、毎月訓練や研修会を行っている。防火管理者の資格を有する職員も複数名おり、職員全体に防災意識の浸透を図っている。地域における連絡網も整備され、地域から協力を得られる体制が構築されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状況に合わせた言葉かけや対応を心がけている。また、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	利用者の人格を尊重し、その人に合わせた言葉かけ、対応をしている。第三者が聞いたときどう感じるかを常に意識して言葉を選ぶとともに、プライバシーに配慮したさりげない介助・支援に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、必ずご本人にお聞きし、選択し自己決定できるような話しやすい環境づくりと声かけに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事の場所や時間、入浴や外出の希望など、利用者のペースに合せてお聞きしながら提供している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでもらったり、好みの色やお洒落などを家族や本人に聞くようにしている。髪が伸びていればご家族へ連絡を行い、日々の身だしなみ(ひげや爪切り等)にも配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片づけ、味見など利用者の力に応じた参加の場面づくりをしている。ご利用者と職員と一緒に食事をとり味を聞いたり、季節の物やご利用者の好みに合せたメニューを取り入れるようにしている。	法人内に複数あるグループホームが分担しながら1か月分の献立を立てている。献立は利用者の希望に沿ってその都度変更しており、外食や弁当なども取り入れて、食事が楽しいものとなるよう工夫している。利用者一人ひとりの力を発揮してもらいながら、調理や盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からアドバイスを頂いて、法人内の他グループホームと協同して偏らない献立作りをしてる。また、買い物時に利用者へお聞きしたり一人ひとりの状態に合った形態やバランス、食事量に配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握し、一人で出来ない方には、毎食後声かけをし歯磨きやうがいをして頂いている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状況、排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を促し、オムツの使用軽減に努め、できる能力によりさりげなくサポートしながら、自立支援に努めている。	オムツや紙パンツの使用を軽減し、トイレで気持ちよく排泄できることを一番に考えている。その人の排泄パターンや、活動・睡眠状況等を把握し、仕草等にも気を配りながら支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努め、一日1回は牛乳を飲んでいただいている。毎日体操を取り入れるとともに、散歩や外出など運動の機会の確保に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は職員が一方的に決めず、その日の体調や気分に合わせて確認しながら入って頂いている。希望により週2回～毎日入って頂いている。	浴室にはヒノキの香りが立ち込め、また、月1回の変わり湯の際には企画に合わせて観葉植物を置くなど、入浴を楽しめる環境づくりがされている。入浴は主に午後の時間帯とし、その日の体調や気分を聞きながら、ゆったりと入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムをと整えるように努めているが、寝付けないうときには温かい飲み物をお出しするなどし、安眠できるように支援している。なじみの寝具を持参されている方もいられる。居室訪問時の室温や状態を把握し個々に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、処方箋のコピーをファイルに綴り、職員が把握できるようにしている。また、処方の変更があるときは記録に残した上で、口頭で申し送り、把握できるように努めている。必要に応じて看護師へ相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれに、個々の趣味や生活歴を活かした役割があるが、時に職員側の提案になってしまうことがある。外出や歌のつどい、サークル活動、映画鑑賞などの機会を設け気分転換の場を提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出かけた方そうではない方、一人一人に応じた対応している。外出活動を企画し、季節を感じていただけるような活動を行っている。その日すぐに出かけたいという要望に、その場ですぐに答えられないこともあるが説明し納得して頂けるよう努めている。家族の協力にて歌声喫茶へ行かれる方もいられる。	戸外で音や匂いを感じることを大切にしており、月1回は、博物館やぶどう園等への外出行事を実施している。また、毎日短時間でも散歩に出たり、週2~3回程度は買い物にも出かけるようにしている。外出や行事の企画の時には家族も誘い、楽しい時間が過ごせるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には家族に十分説明し自己責任のもと所持してもらっている。また、近所に買い物に行き支払いをして頂くなど、社会参加できる場面を設けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はケアセンターにて電話を使用して頂いている。他者がいることに気を使われる方には、子機を使用し居室で通話して頂いている。また、ご家族に時々手紙を書かれ文通されている方もいられる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では季節感を取り入れた装飾や、花などを置き、ご利用者の意見も取り入れ気持ちよく過ごせるように努めている。玄関のイーゼルに季節の事柄や行事を掲示し四季を感じ、昔からの行事を思い出していただけるよう努力している。	落ち着いた柔らかい色調で、木の質感を感じられる造りである。観葉植物や花々、季節感を感じられる装飾品が飾られ、また、利用者が使いやすいよう家具の配置にも工夫している。共有スペースは広くゆったりとした空間であり、利用者が転倒しないよう職員はさりげない見守りを行い、また、広い空間でも職員は走ったりせず、ゆったりと穏やかな対応をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの定位置や好きな場所は決まっている。配置換えや間仕切りをして空間作りをしたり、ソファや畳の小上がりなども設置して工夫をしている。天気の良い日バルコニーや庭も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物の大切さや安心感などを入居時にご家族に説明し、ご本人に合った空間づくりに協力してもらっている。テレビや冷蔵庫、好きな絵や写真など思い思いの物を持参されている。畳を敷き和室にされている方もいらっしゃる。	職員は、家族の理解と協力を得ながら、その人が落ち着いて生活できる部屋づくりに努めている。馴染みの物を用意してもらおう働きかけ、使い慣れた家具や調度品、仏壇、身の回り品や趣味の品、写真などが持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレにのれんをかけたたり、準備が自分で出来るように、食器棚の引き出しに入っている物を明記したりしてわかりやすく動けるように工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない